

II 南大沢に関する上位計画等

- 1 上位計画における位置付け
- 2 「未来の東京」への論点
～今、なすべき未来への投資とは～(抜粋)
- 3 TOKYO Data Highway 基本戦略

Ⅱ-1 上位計画における位置付け（東京都）

「都市づくりのグランドデザイン」（2017(平成29)年9月 東京都）

<南大沢駅周辺が位置するエリアの地域区分>

多摩広域拠点域

- 道路・交通ネットワークの結節点において業務・商業機能が集積した拠点が形成され、リニア中央新幹線や圏央道などのインフラを活用し、他の広域拠点や都市圏との交流が活発に行われている
- 世界の若い世代を魅了する最先端の研究・学術・ものづくりの拠点の形成も進んでいる
- 駅等を中心とした拠点では、物販や飲食といった日常生活サービスに加え、医療・福祉・介護、コミュニティなどの多様な機能が集積し、多摩イノベーション交流ゾーンの活動を暮らしの面から支えている
- 拠点の周辺に広がる市街地においては、高齢者や障害者、子育て世代を含め、誰もが安心して快適に暮らせる住環境が整備されている

多摩イノベーション交流ゾーン

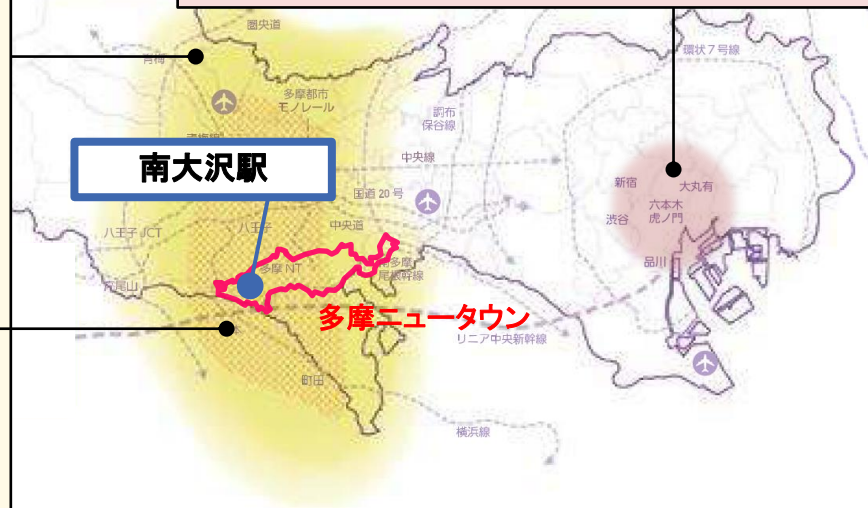
- 「多摩広域拠点域」のうち、特に、大学や企業、研究機関などが集積している地域
- リニア中央新幹線や圏央道、多摩都市モノレールなどの道路・交通ネットワークを生かして域内外との交流が活発になることや積極的に挑戦しやすい環境が整うことにより、様々な主体が交流し、新たなアイデアや創意工夫が生まれ、多様なイノベーションの創出が図られている

<南大沢(地域の将来像)>

大学周辺に**海外の技術者や留学生向けの居住施設**が立地し、駅周辺には商業や医療・福祉機能など、**外国人にも対応した生活利便施設**が集積し、**国際性豊かな拠点や市街地**が形成されている
緑豊かで良好な住環境を活用し、**留学生や海外からの研究者向けの住宅**の確保の促進を図る

国際ビジネス交流ゾーン

- 「**中枢広域拠点**」のうち、特に、国際金融やライフサイエンスといった世界中から人材、資本、情報が集まるグローバルビジネスの業務総括拠点、国際的な中枢業機能が高度に集積した**中枢的な拠**点が複数形成され、高密な道路・交通ネットワークを生かし、国際的なビジネス・交流機能の強化と、その**接続的な更新**が図られている



「多摩ニュータウン地域再生ガイドライン」（2018(平成30)年2月 東京都）

<国際交流促進エリア(多摩ニュータウン西側地区)>

リニア中央新幹線等による国際空港等へのアクセス改善により、大学周辺に海外の研究者や留学生向けの居住施設などが確保されるとともに、駅周辺にはこれらにも対応した機能の集積を図り、**国際性豊かな市街地**が形成される
今後、留学生や海外からの研究者の増加を見据え、多摩ニュータウン再生を進めるに当たり、**国際化に対応したまちづくり**。新たなイノベーションを創出する産業の立地誘導により、職住近接を実現するとともに、**大学の国際化を支援するまちづくり**を進め、新たな価値を生み出す

Ⅱ-1 上位計画における位置付け（八王子市）

「都市づくりビジョン八王子(第2次マスタープラン)」 (2015(平成27)年3月 八王子市)

<南大沢駅周辺>

一般商業複合地として位置づけ、中心拠点の機能と連携し、地域住民の都市環境や日常生活の利便性向上と交流の中心とするために、商業・業務などの機能集積を図る

「八王子市多摩ニュータウンまちづくり方針」 (2019(令和元)年3月 八王子市)

<南大沢駅周辺>

- ・ **にぎわい維持・推進**に向けて、南大沢総合センター（フレスコ南大沢）の活用を図るとともに、八王子市企業立地支援制度等を活用し、引き続き商業施設の立地促進を図る
- ・ 留学生が地域活動に参画することによる**国際交流や地域の活力向上**が期待されるとともに、**留学生が暮らしやすいまちづくり**を進める

八王子市多摩ニュータウンまちづくり方針
対象区域



Ⅱ-2 「未来の東京」への論点 ～今、なすべき未来への投資とは～ (抜粋)

論点04 我々が目指すべき未来の東京の姿とは (2040年代を想定したイメージ)

「Society 5.0」が実現した、世界一のデジタル都市・東京

例 スマート家電による家事の自動化や自動運転車・空飛ぶクルマ、遠隔医療、キャッシュレスなど、都民生活に広く最先端技術が浸透し、世界で最も便利で生活満足度の高い「Society 5.0」都市となっている

様々な人が共に暮らし、多様性に富んだ東京

例1 言語や宗教、文化、生活ルールなどが異なる外国人と日本人が隣り合って仲良く暮らす、世界で最も外国人が暮らしやすいまちとなっている

例2 東京の大学で専門知識を学んだ外国人留学生在が、ビジネスや技術開発の第一線で活躍している

世界最高の交通ネットワークが構築された便利で快適な東京

例 リニア中央新幹線の開通により、他圏域との劇的な時間短縮が実現し、東京が国内と世界の多様な人材や先端研究機関等とを繋ぐゲートウェイとなっている

世界中からヒト・モノ・カネ・情報が集まる、世界一オープンな東京

例1 世界中の高度人材が東京に集まり、日本の高度人材と切磋琢磨し、様々なコラボレーションから新しいイノベーションが生まれ続ける、日本・世界で特異な都市となっている

例2 優秀な留学生在が集まり、世界をリードするイノベーション人材が多数輩出され、東京都立大学からノーベル賞受賞者が出るなど世界中の企業、教育機関から注目されている

例3 外国人向けの住居や医療、スーパーマーケット、インターナショナルスクールが充実し、国籍を問わず世界中の誰もが母国と同じレベルでストレスなく生活できる

論点05 東京の未来のために、何をなすべきか (2030年に向けた課題)

東京都立大学を世界最高峰の大学へと進化させる

○都の「戦略的シンクタンク」の機能を持つ東京都立大学が、高度な人材を育成・輩出し、世界的な課題を解決するための新しい知を生み出す大学となるために何をすべきか

- ・ 戦略的分野への研究開発資源の重点的配分
- ・ イノベーションを生み出し、Society 5.0を牽引する人材の育成
- ・ グローバルスタンダードの入学制度の構築
- ・ 世界中の高度な外国人留学生・研究者の受入れ
- ・ 外国人留学生・研究者との共同研究の推進
- ・ グローバルな課題解決に資するノーベル賞クラスの研究の推進
- ・ 大学発ベンチャーと多摩地域の産業とのコラボレーション促進
- ・ 高大連携、リカレント教育の充実 など

日本人と外国人が共に暮らす共生社会を築く

○外国人が大幅に増加する中、地域社会における共生を実現するために、どのような対応をすべきか

- ・ 外国人受入拡充を見据えた国との連携
- ・ 各地域での共生社会づくりに向けた連携体制の整備
- ・ ワンストップ相談機能(生活一般、医療・福祉等)の強化

『「未来の東京」への論点』は、2040年代を念頭に、我々が目指すべき未来の東京の姿とはどのようなものであるかを、イメージとして提示し、その実現のために、10年後の2030年に向けて為すべきことについて課題を整理している

II-3 TOKYO Data Highway 基本戦略

TOKYO Data Highway 基本戦略 (Version.1) UPDATE_TOKYO (2019(令和元)年08月策定)

- 東京2020年大会のレガシーとして、電波の道～TOKYO Data Highway～(高速モバイルインターネット(5G))の建設に着手

TOKYO Data Highway

世界最速のモバイルインターネット網の建設に着手
5Gネットワークを早期に構築

- モバイルインターネットが繋がらない場所がない、東京を作りあげる
- 5Gの普及と利用拡大を進め、東京を絶えずUPDATE

UPDATE東京都立大学 >> 東京都立大学を重点エリアに

- 東京都立大学に5Gを整備し、最先端のICTによる研究環境を備えた大学へUPDATE ※令和2年4月に、首都大学東京から名称変更予定

研究イメージ

セキュリティ顔認証

IoT

AR・VR

【TOKYO Data Highwayの活用が期待される主な都の政策】

Society5.0の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス化の推進などによる利便性向上 ・MaaSや自動運転システム導入などによる交通渋滞の緩和、自動車事故の軽減 ・AIやIoT、ロボット活用などによる1人当たりの生産性の向上等、人口減少への対応 ・スマートシティの推進などによる環境に配慮した都市の構築 など
新たな産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップの支援等、新たなユニコーン企業の誕生支援 ・ワーケーションやテレワークの推進 ・東京と地方それぞれの強みを生かした連携強化 など
都市力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローン等の活用によるインフラ点検 ・カメラによる災害の被害状況等の把握 ・AIによる被害予測 など